



CHOUZとは「長ずる」の日本語で「成長する」という意味があります。本学は、学生の皆さんが自分の目指す保育者へと成長する過程を共に歩いていきたいと考えています。

コミュニケーションペーパー

2021
Spring & Summer

春夏号

VOL.4

TAKE FREE

特集

言葉に自覚的な保育者の育成を目指す授業内容について

—「国語教育」の授業の取り組みから—

学科長・教授 橋本祐治(国語教育)

トピックス

島根県保育士養成校連絡協議会
令和3年度第1回総会を開催

>>>先輩たちに聞く!

保育の現場から (河添友貴さん)

▶教員紹介

大阪健康福祉短期大学 講師 増原真緒

▶2021年度 入学試験日程

▶オープンキャンパス

編集後記

言葉に自覚的な保育者の育成を目指す授業内容について —「国語教育」の授業の取り組みから—

子どもたちの生きる力を育む幼児教育の取り組み過程において、課題を解決したり生活をより豊かにしたりするために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けるには、言葉の力の育成が必要不可欠です。また、言語能力は、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」に大きく関わる非認知的能力の涵養にも重要な役割を果たします。したがって、乳児期から小学校就学までの6年間の言葉の教育を充実させることは、その後の子どもたちの言語能力の向上のみならず、人生において重要な役割を果たすと言っていいでしょう。

保育者は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置きながら子どもたちの主体的な遊びや生活を引き出しつつ、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」のいわゆる5領域のねらいをもって保育を行っています。ここに示されている姿を、子どもたちの主体性を十分に引き出しながら育むためには、保育者自身が言葉に対して十分な知識を持ち、深い関心と豊かな感性を身に付けているとともに、その資質を常に高めようとする意欲が必要です。さらに、園生活全体を通した様々な体験を積み重ねる中に「言葉の力」をつける「ねらい」を自覚し、子どもたちが環境に関わって展開する具体的な活動を通して総合的に指導する中で「言葉の力」をつける力が求められます。私は、この資質と姿勢を備えた保育者を「言葉に自覚的な保育者」とし、指導するすべての授業科目においてその育成を目指し、指導の在り方を研究しています。ここでは、「国語教育」における授業内容の一部分について紹介します。

まず、人間にとっての「言葉」の重要性を保育者の立場で認識することについてです。学生は、これまでに小学校入学以来国語科を中心として言葉の教育を受けており、また、生まれて以来生活の中でいわゆる国語教育(日本語教育)を受けてきています。それによって、自らの言語能力を高め、生きる力を身に付けてきています。子どもたちの言語能力を育む保育者となるためには、改めて「言葉」が人間にとっていかに重要なものであるかを理解することが必要です。その授業を受けた学生の「学修のまとめ」は次のようです。

言葉があるから人間なのだということを改めて認識した。(中略-筆者)印象的だった学びとして、言葉は自分の内部で思考する際

学科長・教授
橋本 祐治
(国語教育)



特集

にも重要な役割を担っているということだ。口から音として発しなくても、頭の中で無意識に情報に言葉に変換して思考しており、メタ認知等の重要な能力にも大きな影響を与える。国語は、全ての学びの基礎になることを認識して、私たちは保育を考えなければならぬ。(K.T)

次に、子どもたちと生活を共にしながら子どもたちの言語感覚を磨き、感性を豊かにする資質を身に付けることです。私の授業では、「俳句作り」を取り入れています。学生は、各回の授業までに、生活する中や自然の移り変わりでの新しい発見を「歳時記」としてまとめ、その内容から「俳句」を一句作り、授業の始めに提出します。私は、前回授業で提出された「歳時記と俳句」の中から、4句程度を選んで、解説とともに紹介します。この取組の積み重ねが、実習場面で次のように生かされたと感じた学生がいます。

身近にある自然に目を向けて、子どもがそこでどんなことを感じて考えて遊びを展開しているのか考えながら見る事ができた。(H.N)

最後に、保幼小連携の視点から、小学校入学後特に入門期の国語科学習がどのような目標の下でどのような内容が展開されるかを知っておくことです。私の授業では、「紙芝居作り」を取り入れています。学生は、小学校1年の国語教科書(『新編 あたらしいこころ 一上』東京書籍平成26年版)一番初めの教材(見開き8ページ4枚の絵)を見て、子どもの視点に立ってグループごとに紙芝居をつくり、発表し合いました。この取組が、実習場面で次のように生かされたと感じた学生がいます。

紙芝居作りでは他者との協働はもちろん、対象となる年齢の子どもに対してどのような語彙を用いて話せば分かるかなど、子どもの目線に立って「言葉」を考えることができるようになった。(M.K)

子どもたちの「生きる力」の根幹をなす「言葉の力」を、より豊かに育む力を持った学生を育成するために、今後もさらに授業内容を充実させていきたいと思えます。

島根県の保育士養成教育の向上と保育人材確保・定着に向けて 島根県保育士養成校連絡協議会 令和3年度第1回総会を開催

昨年11月に、島根県内保育士養成校5校が会員となって発足した島根県保育士養成校連絡協議会(以下「連絡協議会」)は、この程令和3年度第1回総会を開催し、事業推進体制を検討するとともに、旗揚げ事業として県内西部地域を主な対象とした島根県西部地域保育士養成進学説明会の7月開催を決定しました。

第1期事業を進めるにあたっては、本学余村望学長代理が会長を務め、2年間の事務局を担当することとなりました。また、保育・幼児教育学科開設以来3年間特任教授としてご尽力いただいた高橋憲二島根県立大学短期大学部名誉教授に顧問として連絡協議会の運営に助言いただくことになっています。

連絡協議会では、保育士養成教育の向上と保育人材確保・定着を目的とした事業を展開することとしていますが、事業推進にあたっては会員校5校と協働して、島根県子ども子育て支援課、島根県幼児教育センター、島根県福祉人材センター、保育関係3団体(島根県保育協議会・島根県私立保育園連盟・日本保育協会島根県支部)

がオブザーバー参加し、県下の関係団体が総力を挙げて成果をもたらすことのできる体制をつくっています。

これまで島根県では、保育人材確保の必要性から様々な取り組みが展開されてきましたが未だ多くの課題を残しています。連絡協議会では、これまでそれぞれに保育人材を輩出してきた県内保育士養成校が、それぞれの立場にこだわらず、情報、事業内容、課題、目的と成果を共有するとともに、産官学が一体となり、県下の子育て支援、ひいては島根創生、地域共生社会の創造に寄与することのできる持続的な事業母体へと発展進化することを目指しています。

先述の島根県西部地域保育士養成進学説明会は、進学者の県外流出が依然として多い保育分野において可能な限り県内養成校への進学を促し、島根の未来を創る人材として定着してもらうことを目的として開催する予定です。詳細が決まり次第ご案内します。

連絡協議会の事業に多くの皆様のご支援をいただきますようお願い申し上げます。



教員紹介



講師(保育内容【言葉】)
増原 真緒



Q1 研究テーマと研究の目的について教えてください。

乳幼児期の子どもの豊かな言葉について研究しています。幼少期に様々な経験を通して豊かな想像力を培うことで、その後の人生に大きな影響をもたらすと考えられています。想像力の重要性を土台として、今後は保育者の働きかけや言葉を育む環境について保育現場の実際に基づいた研究を進めていきたいと考えています。

Q2 なぜ子どもの「言葉」の研究の道に進もうと思ったのですか？

私自身が元保育士であり、子どもの育ちを支えることについて知識を深めたいと考えました。言葉は相手の心を揺れ動かします。素直に嬉しく感じる言葉もあればその逆もあり、保育においては保育者の言葉かけによって子どもの心の安定やその後の意欲にも大きく影響します。子ども、そして保育者の発する言葉について考え続けていきたいと思っています。

Q3 本学の教員として意識していることはありますか？

人と人との間には信頼関係が何より大切だと考えています。だからこそ、できる限り学生のみなさんの思いを尊重し、取り組む姿勢を認める言葉を大切にしていると同時に、思いを否定しない関わりと指導ができるよう日頃から意識しています。保育者として自信を持って保育現場へ行くことができるような指導を心掛けていきたいと思っています。

Q4 座右の銘やこだわりなど

「ゆっくり、ぼちぼち」。私のがむしゃらタイプなので、どうしても突っ走りがちになります。不要なことにまで焦ってしまうことがあります。だからあえて「ゆっくり」と、自分を落ち着かせながら「ぼちぼち」日々を過ごすことで、時には立ち止まり周囲をよく見て確認し、そこで気づける事柄に出逢っていきたくと思っています。

保育の現場から

キラリ 仕事人



先輩たちに聞く！

河添 友貴さん(1期生)
(松江市出身・島根県立宍道高等学校卒)
米子聖園 天使園に勤務

保育現場に出てみて、大学での学習の一つ一つが、 現場でしっかり役に立っているということを、改めて感じる

多々ある学びの中で最も仕事の役に立っていると感じるのは、卒業論文の制作過程で得た学びです。

私は現在、児童養護施設で働いていますが、施設に関する疑問を論文のテーマとして扱い、複数の施設でボランティア活動や聞き取り調査を行いました。目指す職業について自らの意思で行動し、考察を繰り返す学びには充実感がありましたし、実際に職業に就いてみて、大学での学習の一つ一つが、現場でしっかり役に立っているということを、改めて感じています。

実際の子どもの姿に対して「これは心理学の講義で聞いた〇〇だな…」と捉えることができ、それを踏まえた関わりを実践するといった場面が多々あります。そのような関わりができたときはとても充実感がありますし、大学で専門的な学びをしていて良かったと思える瞬間でもあります。

児童養護施設では、家庭支援専門相談員、里親支援専門相談員、心理療法担当職員、職業指導員、栄養士等、様々な専門職員が協働して子どもを支えています。私はまだまだ至らない所ばかりですが、「保育士」としてどのような貢献が出来るのかを考えながら、日々努力を重ねているところです。

私は、現場に出た今、児童福祉・幼児教育の分野は、大きな変革期の中にあるということにより実感するようになりました。そして、その中心を担うのは若い職員だと考えています。私の職場でもたくさんの若い職員の方々が活躍しており、そのような空気感の中で働く日々はとても充実しています。

子どもたちの幸せの実現に向かって、みなさんと一緒に働く日々をとても楽しみにしています！

2021年度 保育・幼児教育学科入学試験日程

募集区分	選抜日	選抜方法			
		総合型 選抜AB	学校推薦型 選抜A	学校推薦型 選抜B	社会人 選抜
第1回総合型選抜AB	2021年10月23日(土)	○			
第2回総合型選抜AB	2021年11月13日(土)	○			
前期	第1回		○	○	○
	第2回		○	○	○
	第3回		○	○	○

オープンキャンパス開催!(予約制)

2021年度のオープンキャンパスは、
YouTubeを使用したライブ配信でも実施します!

2021年 時間 13:00~15:30(受付12:30~)

7/3 土 7/17 土 8/7 土 8/21 土

TEL:0852-67-3716 までお気軽にお問合せください。



オープン
キャンパス
会場

学校法人 大阪健康福祉短期大学



保育・幼児教育学科(松江キャンパス)

鳥根県松江市西川津町4280

TEL:0852-67-3716 FAX:0852-67-3805

ホームページ <http://www.shimane.kenko-fukushi.ac.jp>

Eメール kouhou-shimane@kenko-fukushi.ac.jp



スマートフォン用

地域総合介護福祉学科 設置計画書提出中

鳥根県安来市広瀬町広瀬753-15

TEL:0854-32-4198 FAX:0854-32-4197

ホームページ <https://www.yasugi.kenko-fukushi.ac.jp>

Eメール kouhou-yasugi@kenko-fukushi.ac.jp



スマートフォン用

編集後記

今年3月、嬉しいニュースが舞い込んできました。2年生44名全員が正規雇用で就職先内定を達成したとのこと。広報の立場から学生たちが本学に入学する前の高校生の頃から進学ガイダンスなどで学生を見てきました。学生自ら選んだ道に就職できたことに本当に感動しました。

就職指導について本学は、定員40名の少人数ならではの良さを活かし、ひとりひとりの個性に合わせた個別対応を行っています。教員と学生との距離が近いことも特徴で、学生からは困った時にすぐに相談にのってもらえると好評です。これからも学生が安心して資格取得、就職までできるようサポートを行っていきます!

(担当 宇山 美佳)



コミュニケーションペーパー

2021
Spring & Summer
春夏号

Vol. 4

Chouz(チョウズ)第4号 2021年6月1日発行

発行者:大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科

印刷:株式会社谷口印刷